

## ■ 就任5か月で、西岡市長が選挙公約を修正 「揺るぎない方針」として、2機能(市庁舎+福祉会館)複合建築案を提示

PTが「検証」作業を続けている最中の平成28年5月23日、西岡市長は、「蛇の目ミシン工場跡地に、①市役所、②福祉会館、③図書館本館、④集会施設をまとめて複合建築する」との選挙公約を修正し、「蛇の目ミシン工場跡地に、①市役所、②福祉会館をまとめて複合建築する」との方針を示しました。西岡市長はその方針を「揺るぎない方針(決して変えない方針)」と表現しました。つまり、選挙公約であった「4機能(①②③④)一括」が「2機能(①②)一括」に縮小されたということです。図書館の件はどこかに雲散霧消してしまいました。「検証」のためのPTが中間報告すら出していない中、なぜ「見切り発車」で「揺るぎない方針」が打ち出せるのか・・・と私は不思議に思いました。

ただ、私は、「元々の公約に相当無理があったので、財政的に現実的な方向に転換したことは前向きに評価できる」と考え、その旨を議会で意見表明しました。市議会でも過半数を超える議員が、私と同様の立場を表明しました。市長選では争ったわけですが、選挙が終わればノーサイドであって、市長と議会が建設的に話し合いをしていく必要があると私は思います。そういう意味では、市長が、議会の指摘も踏まえて、実現不可能な公約を修正したことに関しては、前向きに受け止めるべきだと考えました。

## ■ 半年「検証」しても答えを出せなかったPT

平成28年8月末には、PTが「最終報告書」を西岡市長に提出。西岡市長はそれを議会に配布しました。

PTは、さまざまな観点から、西岡市長の公約を「検証」しましたが、結局、実現可能な公約だったのかどうか、今後どのようなスケジュールや財政計画で建築していくか、については答えを出せませんでした(あるいは、市長に遠慮して、あえて出さなかったのかもしれませんが)。3月の設置から半年も「検証」作業を続けながら、答えが何も出ないというのは、「先送りの市政」「決められない市政」の最たるものです。

3月末には福祉会館(公民館本館機能含む)が耐震強度不足で半ば強制的に閉館となっており、公民館本館は事実上「廃止」されました。福祉会館を利用していた団体も、活動場所がなくなり、非常に不便な状態に追い込まれています。そういう意味では、市民サービスの観点でも、早急な建設が望まれています。また、現在の市役所本庁舎も耐震強度不足で、緊急に移転する必要が叫ばれています。現在の第二庁舎は民間企業からの借り物で、毎年毎年の高額な賃料の支払いに市民の批判が出ています。「先送り」が許される状況ではないのです。

## ■ 西岡市長、方針をいきなり「ゼロベース」に 市議会は、スケジュールや財政計画の早期提示を強く求める

平成28年10月4日、西岡市長は、5月に打ち出した「揺るぎない方針」=「蛇の目ミシン工場跡地に、①市役所、②福祉会館をまとめて複合建築する」との方針を「ゼロベースで見直す」と表明しました。つまり、白紙に帰すということです。「揺るぎない」はずが、一体どうしたのか・・・と耳を疑いました。

なぜ白紙に帰すのか、いろいろ質疑をしてみました。その真意はわかりませんでした。「揺るぎない方針」については、私どもリベラル保守の会を含めて、市議会の過半数の議員が大筋において賛同していたわけで、「ゼロベース化」は理解に苦しむ対応でした。市議会は西岡市長に対して、スケジュールや財政計画を早期に示すよう強く求めました。

## ■ 西岡市長、「新しい方針」を示す 市役所庁舎と福祉会館の建設を先送りする内容・・・「見直し」が必要

平成28年12月20日、市議会本会議において「市長報告」が行われ、西岡市長が市庁舎及び福祉会館の建設について、「新しい方針」(スケジュールと財政計画含む)を発表しました。